

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市地域連携保全活動協議会 開催結果の要旨

会 議 名	第7回 木津川市地域連携保全活動協議会		
日 時	平成26年2月5日（水） 午後6時から午後8時	場 所	市役所第2北別館 2階 会議室
出 席 者	委 員	<p>■森本 幸裕（会長）、■深町 加津枝（副会長） ■長尾 輝冶、■田邊 英夫、■松岡 幸男、■岩井 照芳、 ■吉田 博次、■立花 志保、■吉村 文彦、■湯瀬 敏之、 □木俣 知大、□武田 学（代理出席：福井 喜久子）、 ■平塚 正純、■尾崎 直利 ※□：欠席者</p>	
	オブザーバー	<p>環境省 近畿地方環境事務所 ■中山 良太</p>	
	事 務 局	<p>尾崎課長、奥田補佐、茅早主査、栗本（ひょうご環境創造協会）</p>	
議 題	<p>1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 議事 （1）生物多様性木津川市地域連携保全活動計画（案）について パブリックコメント実施結果（提出意見と市の考え） （2）サブタイトル（愛称）のネーミングについて 5. その他 （1）平成26年度活動スケジュール（案）について 6. 閉会</p>		
審 議 結 果 要 旨	<p>1. 開会 事務局より、開会を宣言した。</p> <p>2. 市長あいさつ 河井市長から、第7回木津川市地域連携保全活動協議会の開催にあたり、あいさつがあった。</p> <p>3. 会長あいさつ 森本会長から、第7回木津川市地域連携保全活動協議会の開催にあたり、あいさつがあった。</p> <p>4. 議事 （1）生物多様性木津川市地域連携保全活動計画（案）について パブリックコメント実施結果（提出意見と市の考え） 事務局より、資料1に基づき説明し、質疑応答を行った。</p>		

	<p>なお、計画について、第7回協議会における意見を反映させ、会長と協議後、市へ提出することを確認した。</p> <p>(2) サブタイトル (愛称) のネーミングについて 事務局より、資料2に基づき説明し、質疑応答を行った。 サブタイトルは、「みもろつく鹿背山再生プラン」とすることを確認した。 なお、伝承・コラムについては、計画の公表などにあわせ、さとやま通信等に記載し、計画の啓発として活用することとした。</p> <p>5. その他 (1) 平成26年度活動スケジュール (案) について 事務局より、資料3に基づき説明し、質疑応答を行った。</p> <p>6. 閉会</p>
<p>審議経過要旨</p>	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 市長あいさつ 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 会長あいさつ 審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 議事 (1) 生物多様性木津川市地域連携保全活動計画 (案) について パブリックコメント実施結果 (提出意見と市の考え) (○…質疑・意見、●…会長、→…質疑に対する返答)</p> <p>○質問3について、ナラ枯れの記述を、どういう風に修正すべきとあるのか。 →「カシノナガキクイムシによる」という記述を入れるべきという意見であった。「ナラ枯れ」は、一般に浸透しているとの本協議会における意見に基づき、本記述としている。</p> <p>○質問2について、生物多様性地域連携促進法には、計画名称の定めはあるのか。 →本計画における計画区域は、市域の一部分であることから生物多様性地域連携促進法に規定する保全活動計画を策定するものである。市域の全域を対象とするのであれば、生物多様性基本法に規定されているとおり、地域戦略を策定することとなる。</p>

○質問7について、市費の予算化を図る考え方には、私は反対である。木津川市の里山は市民が守るという考えに基づき、市民による基金を活用する応援団が中心となり、市民を主体として構築することが重要である。しかし、行政による管理が行われると、全国的に見られるように、逐一市の了解を得る必要がある。また、議会による介入も考えられることから、我々団体の本意が薄れてしまう。市の考えは、「検討する」であることから、問題ないと考えるが、市費を予算化することについては、私は大反対である。

→今後の活動の中で、市が担うべき役割、活動団体をお願いすべき内容、それぞれを明確にし、お互いの立場を尊重し、協議をしながら進めていきたい。

○質問16について、本応援団の名前が堅苦しいと感じる。木津川市地域連携活動応援団と言われても、参加をためらってしまうのではないか。応援団の正式名称はこれで良いと考えるが、愛称をうまく使い、楽しい感じを伝えるべきではと考える。

また、先の市が予算化をすることにより、制約が起きるのではないかという意見であるが、確かにそう考えることもできるが、府が実施する地域力再生プロジェクト支援事業交付金制度もあり、里山保全活動に活用いただけるものもある。この交付金は自由度も高いことから、是非ご活用いただきたい。

最後に、計画に記述する文言について、言葉足らずの印象を受ける箇所があることから、再度精査願う。

→文言などについて、再度精査し、修正する。

○提出意見にもある「ナラ枯れ」などの文言について、注釈をつけてはどうか。

○33頁の図15について、左下のピンク色に着色されている部分が何か分からない。

→注釈について追記する。また、ピンク色の着色については、ニュータウン事業が進む城山台地区である。新興地住民の協力も得たいとの考えから着色した。誤解を招かないように修正する。

○写真の注釈があるものと無いものがある。統一すること。

→修正する。

○20頁のイ) 鹿背山焼について、最後に記されている「春日明著」であるが、「春田明著」ではと考える。

→再確認し、修正する。

○1頁の「1-1 生物多様性とは」において、2行目「ある生物種は残念ながら死滅する等」とあるが、生物の多様性に関する内容であるので、「残念ながら」と記述するのは不自然である。

→修正する。

○21頁の計画目的に「良好な環境を劣化させることなく」とあるが、これは「良好な自然環境を劣化させることなく」とするべきである。

○里地里山全体ということもあり、自然環境だけでなく文化環境も含めるべきでは。

○上部には、「一方、人間が関与して形成された里地里山等の環境は～環境が劣化することが判明してきました。」とある。「環境」が重複しており、不自然である。

○「劣化」とあるが、劣化どころではないことを伝えたい。現状はより悲惨である。

●貴重な意見であり、計画に反映する必要がある。「環境の劣化」ではなく、「暮らしそのものが脅かされる恐れがある」といった表現はどうか。

→修正する。

○継続した保全活動を進めるには、根本的に人手が足りない。高齢化と予算の問題がある。活動には出費が伴うため、補助金なしでは長続きしない。

31頁の上部説明において、「高齢化が進み、困難な状況である」や「資金面の難しさがある」といった趣旨の記述を入れてはどうか。

○意見の記述を入れる場合、それに対する対応も記述する必要がある。

○そういった大きな枠組みを作ることも応援団に含まれると考える。

→いただいた意見・課題については認識している。ただ、まずは里山の保全を計画するものであるため、後に検討をしたい。

○42頁の始まりに「図25に示すとおり」、43頁の始まりにも「図25に示すとおり」とあるが、42頁の方は不要と考える。

→修正する。

(2) サブタイトル(愛称)のネーミングについて

(○…質疑・意見、●…会長、→…質疑に対する返答)

○「カッシャマ」という呼称は、地元でも高齢者しか用いない。一般向けではない。例えば、城陽市の人がこれを正しく読めるだろうか。

○高齢者には「カセヤマ」は言いづらく、「カッシャマ」となる。地元ではこの呼称を用いることがあることを知っていただきたい。

○万葉集にて書かれている、「みもろつく鹿背山」のことも含め、物語風の解説を入れても楽しいのではないかと。

	<p>○「カッシャマ」にこだわらないが、「鹿背山」は入れていただきたい。</p> <p>○「万葉」の文言は、奈良をイメージさせる。</p> <p>○「みもろつく」はどうか。鹿背山にかかる枕詞として、万葉集にも記載がある。また、「みもろつく」は、神様が住むといった意味である。「万葉」よりは、「みもろつく」を入れたいと考える。</p> <p>○「みもろつく」は、鹿背山にのみかかる枕詞か。</p> <p>○「鹿背山」及び奈良県の「三輪山」にもかかる枕詞である。</p> <p>○19頁の歴史文化・地場産業について書かれているが、少し堅苦しい。こういった伝承をコラム記事として入れてはどうか。</p> <p>○少なくとも木津川市民には「みもろつく」の意味を知ってほしいと考える。そうしなければ、一人よがりの愛称となってしまう。</p> <p>●サブタイトルは「みもろつく鹿背山・・・」とする。「再生」はどうか。いきいきよりは意味があり、良いと考えるが。</p> <p>○50年前の姿に戻すといった考えであることから、「再生」がふさわしいと考える。</p> <p>●「みもろつく鹿背山再生プラン」とする。</p> <p>5. その他</p> <p>(1) 平成26年度活動スケジュール(案)について (○…質疑・意見、●…会長、→…質疑に対する返答)</p> <p>●ナラ枯れについての状況は。</p> <p>○ナラ枯れについて、URにおいて危険性のある場所については伐採をすることとしている。すでに業者との契約業務等を進めており、年度内に事業を実施完了する予定である。</p> <p>○整備イメージ図について、散策や管理用通路は、整備イメージ図のとおり実施するのか。 鹿背山城には石垣がないことから、多くの人が入ると、遺跡自体が壊れることが不安視される。普通の山にしか見えないところが重要であり、鹿背山城に散策道を作ること疑問を感じる。整備イメージ図とされているが、注意すべきである。</p> <p>→整備については、これまでの協議会における意見にもあるとおり現場主義と考える。今後の整備箇所について、団体と協議しながら進める予定である。</p> <p>6. 閉会</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>随行者5人 傍聴者3人</p>